

# 子育てで大切な事

榊原 洋一



# 子育て

すべての親の望むこと



できるだけよい環境で  
子育てしたい



?

では、どのような環境が  
良い子育て環境なのだろうか

# 子育ての 知恵

放任がよい？

厳格なしつけがよい？

テレビやスマホは見せない？

絵本の読み聞かせがよい？

母乳で育てるべき？

3歳までは母親が育てるべき？

保育園か、幼稚園か？

習い事は何をいつから？

トイレトレーニングのやり方は？

社会情動スキルを伸ばす方法は？

早期教育は有効か？

# 子育ての知恵の根拠

理論から

伝承・経験から

実証から

# 理論から

- ◆ 愛着理論：子どもは数人以内の保育者としっかりした絆を結ぶことによって、健全な発達が保障される？
- ◆ 母乳育児：ほ乳動物は、乳児にとって理想的な栄養を母乳によって与えるように進化してきた？
- ◆ 食物アレルギーは、未熟な消化管からのタンパク質の吸収が関係しているので、アレルギーを起こしやすい食物を与えるのは遅い方がよい？

# 伝承・経験から

- ◆ 乳児は3歳までは、母親が子育てをするのが最も良い？
- ◆ 寝る子は育つ？
- ◆ 泣いている子をすぐに抱き上げると抱き癖がつく？
- ◆ 布おむつのほうが、おむつ外れが早い？

# 実証から

- ◆ 遊びは子どもの発達によい影響がある？
- ◆ テレビは子どもの発達に悪影響を及ぼすのか？
- ◆ 保育園より、母親の子育ての方が良い？
- ◆ 母乳育児は子どものIQを高くする？



# 実証の方法と難しさ

- ◆ 薬による治療のように、比較調査ができない。
- ◆ 実証しようとする項目に関連する因子が多数ある。
- ◆ 多くの因子を検証するために、調査対象人数が多い。
- ◆ 因果関係を証明するために長い期間がかかる。

こうした条件を満たすための唯一の方法がコホート研究

# 遊びは子どもの発達によい影響を与えるか？

- ◆ スーザン・ウォーカー女史の研究
- ◆ ジャマイカの低栄養で身長が低い乳幼児（9～24ヶ月）129人を4群に分けた。1群：ミルク配給、2群：ミルク配給と週1時間の保健師との遊び、3群：遊びのみ、4群：対象　遊びは2年間続けた
- ◆ 結果：11歳時点で、遊び群で、IQと言語能力が、遊びのなかった群に比べて有意に高かった。
- ◆ 22歳まで追跡調査：遊びの群は、教育歴が高く、喧嘩や暴行歴が低い

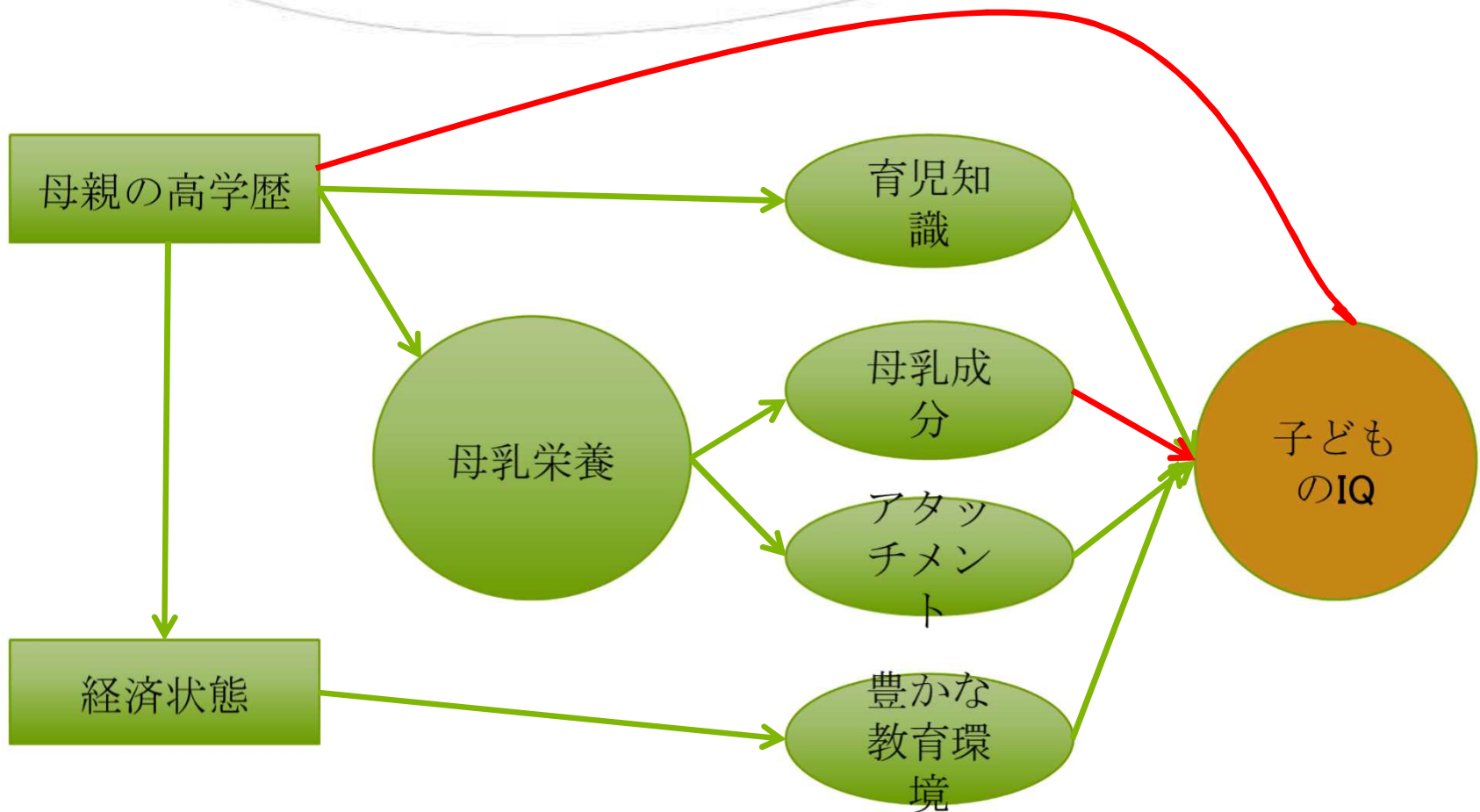
Susan P Walker et al. Effects of early childhood psychological stimulation and nutritional supplementation on cognition and education in growth-stunted Jamaican children. Lancet Vol 366, Nov19,2005

# 母乳栄養児のIQは人工栄養児より高いか？

- ◆ ジャイン博士の研究
- ◆ 1929年から2001年までに発表された母乳栄養児と人工栄養児のIQの比較研究のメタアナリシス
- ◆ 実証研究としての妥当性条件（研究デザイン、対象児条件、対象者数、社会経済状態による統制、盲験であったか、など）を満たしていた研究は2件のみ
- ◆ 1件の研究では、4.5ポイントIQが高いという結論であったが、もう一つでは有意差なし。

Jain A et al. How good is the evidence linking breastfeeding and intelligence. Pediatrics, Vol 109, 2002

# 母乳育児と知能の関連（例）



# 保育園・幼稚園より母親が育てる方が子どもの発達が良い？

- ◆ アメリカ国立小児保健・人間発達研究所のコホート研究
- ◆ 1991年から2007年までの15年間
- ◆ 1364家族が参加

The NICHD study of early child care and youth development

# 子どもの保育環境と子どもの発達 アメリカでの 研究調査項目

NICHD Study of Early Child Care and Youth Development

◆ 1000名以上の健康な乳児が参加

第1期 (1991～1994) 1364家族

第2期 (1995～1999) 1095家族

第3期 (2000～2004) 1073家族

第4期 (2005～2007)

◆ 0歳時から15年間多数の観察、質問紙、発達検査

# 第1期～第2期の調査項目

**TABLE 1.4. Constructs for Phases I and II**

	Time of measurement							K	1st grade
	1 mo	6 mo	15 mo	24 mo	36 mo	54 mo			
<b>Child care environment</b>									
Structural regularities	X	X	X	X	X	X	X		X
Quantity	X	X	X	X	X	X	X		X
Stability	X	X	X	X	X	X			X
Quality	X	X	X	X	X	X			X
Caregiver characteristics	X	X	X	X	X	X			X
<b>School environment</b>									
Structural context								X	X
School curriculum								X	X
Child's perceptions									X
<b>Home/family environment</b>									
Structural context	X	X	X	X	X	X	X		X
Quality of home life		X	X	X	X	X			X
Parent characteristics	X	X	X	X	X	X	X		X
<b>Social-Emotional</b>									
Quality of relationships		X	X	X	X	X	X		X
Adjustment		X	X	X	X	X	X		X
Self-concept and identity									X
<b>Cognitive development</b>									
Global intellectual functioning			X	X		X			X
Knowledge and achievement					X	X	X		X
Cognitive processes			X	X	X	X	X		X
Language development			X	X	X	X	X		X
<b>Health</b>									
	X	X	X	X	X	X	X		X

# NICHD Studyの結果

**TABLE 1.9. Summary of Findings : Aspects of Child Care and Developmental Outcomes<sup>a</sup>**

	愛着形成	親子関係	不服従	問題行動	認知発達	言語発達
保育の質	*	*		+	+	+
保育時間	*	*		*		
保育のタイプ			*	*	+	+
安定性	*		*			

*Note.* +, consistent effects ; \*, effects under some conditions.

<sup>a</sup> After controlling for child and family variables.



# 保育環境子どもの発達 結果

## (フリードマン) (抄)

- ▶ 質の高いケアを受けた子どものほうが、24, 54カ月においてより高い社会技能を示した
- ▶ 質の高いケアを受けた子どもは、15歳時の顕在化問題行動が少なかった
- ▶ 3歳までの間に保育所で過ごした時間と、後の認知、言語発達の間には相関はなかった
- ▶ 質の高いケアは、15歳時の認知・言語発達を有意に促進していた

しかしこれらの効果サイズは小さく、臨床的に意味があるとはすぐには言い切れない

# テレビは子どもの発達に 悪影響を及ぼすのか？

## 💧 アメリカ小児科学会勧告

小児科医は、親に次のようなガイドラインを推奨すべきである

1. 子どものテレビ視聴は、質のよいプログラムで一日に多くて1～2時間以内にすべきである
2. 子どもの部屋にテレビを置かない
3. 2歳以下の子どもにはテレビを見せないようにする

Children, Adolescents, and Television, Committee  
on Public Education, Pediatrics, 2001

# Trajectories of Early Television Contact in Japan: Relationship with Preschoolers' Externalizing Problems ( Sugawara M, et al. J. Children and Media,2015)

## テレビ視聴と子どもの外在化問題行動の関連

- ◆ 1歳から5歳までの子どものテレビ視聴日誌記録から、子どもがテレビ視聴時間から、3つのグループに分類されることを報告。
- ◆ 長時間群 (8%)は0歳で331分/日、短時間群 (51%)は147分/日、中時間群 (41%)は236分/日であった。
- ◆ 子どもの困難な気質あるいは親のうつ傾向があると、子どもは長時間視聴になることが明らかになった。
- ◆ 5歳時点での外在化問題 (多動、不注意、問題行動)の発生率は3つのテレビ視聴時間群の間に有意差がなかった。

◆ Pediatrics Perspectives “Mobile and Interactive Media Use by Young Children: The Good, the Bad, and the Unknown (Radesky JS et al. Pediatrics, 2014) 小児科

◆ 展望：小さな子どもへの携帯、インタラクティブメディア使用：良い面、悪い面、分からないこと

◆ これから必要な研究：

1. 子どもはインタラクティブメディアを通じて何歳からまたどのようなコンテンツから、学習をすることができるのか？

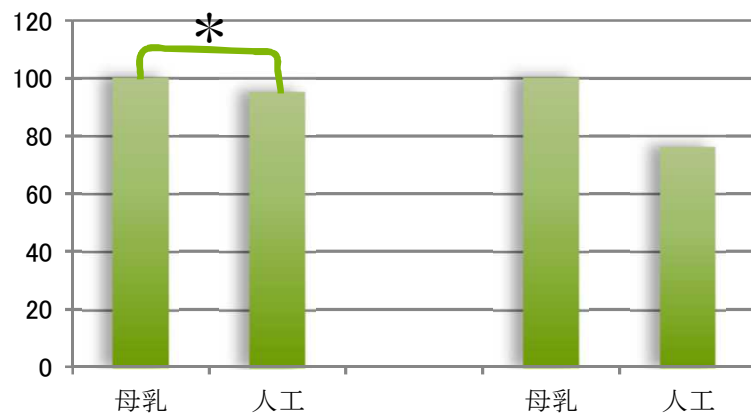
2. タブレットはどのような学習効果をもたらすことができるのか？

3. リテラシーの低い家庭では、アプリケーションは子ども学習において保護者に利する効果があるのか？

4. 自己コントロールの問題のある子どもをコントロールするためにメディアを使うことは、良いのか悪いのか？

# 統計の解釈の難しさ

- ◆ 統計的に有意でも、臨床的には有意とは限らない。
- ◆ 対象数が増えると、小さな差でも有意になる。



対象者**2000**人  
有意差あり

対象者**30**人  
有意差なし